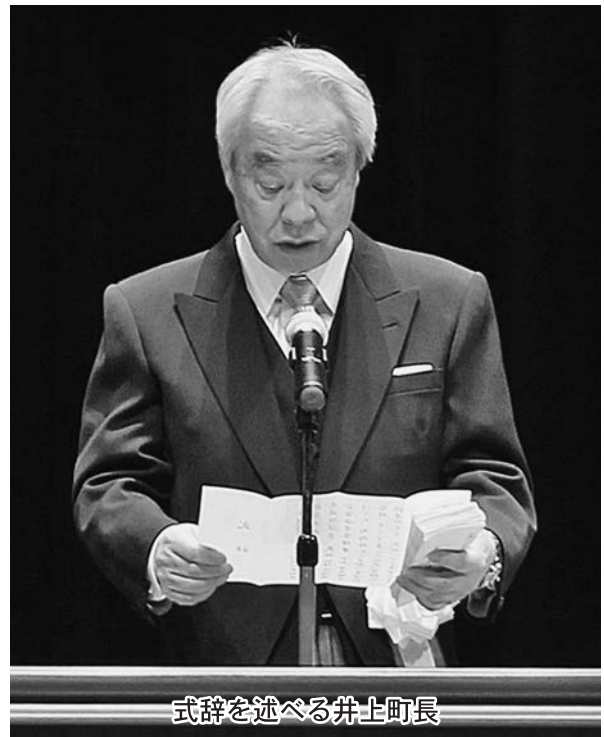


輝き続ける置戸をめざそう 開町100周年記念式典

開町100周年記念式典・祝賀会が11月13日、中央公民館講堂で開かれました。町内外の来賓や団体代表者約280人が出席し、先人の偉業をしのび、1世紀の節目を祝うとともに、置戸町のさらなる飛躍を誓いました。

明治36年に最初の定住者が居を構え、大正4年4月1日、北海道の2級町村制の施行に伴い、当時の野付牛村から分村。昭和25年町制施行し、29年の洞爺丸台風による風倒木処理もあり、35年には人口が1万3千人を超えましたが、林業の衰退もあり過疎化が進行、現在3,087人（10月末現在）となっています。そして、本年4月で100周年を迎えました。

式典では、町民憲章の唱和と開拓先人の霊に黙祷を捧げたあと、井上町長が式辞を述べ「開拓当時の人々の偉業を振り返り、鬱蒼とした原始林に斧を振り、未開の地を切り開いてきた先人の不屈の精神に、敬意と感謝の念でいっぱいであります。先人の人々から受け継いできた自然や、この地で培われてきた文化をしっかりと守り育て、夢と希望にあふれる置戸の未来を共に築いていくことが、今の時代を生きる私たちに託された最大の使命であると考えております。置戸町がこの先150年、200年と未来永劫輝き続けることを皆さん共にめざしましょう」と決意を示しました。



式辞を述べる井上町長



開拓先人の霊に対し黙祷



町民憲章を読み上げる岩村竜之介君と鈴木愛菜さん